

氏名	渡辺 雅子
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 5075 号
学位授与の日付	平成 27 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯学総合研究科社会環境生命科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目	The Influence of Lifestyle on the Incidence of Dental Caries among 3-Year-Old Japanese Children (3 歳児う蝕罹患にかかわる生活習慣の要因に関する分析)
--------	---

論文審査委員	教授 塚原宏一 教授 土居弘幸 教授 森田 学
--------	-------------------------

学位論文内容の要旨

本研究は、1 歳 6 か月児健康診査（以下、健診）時点での生活習慣、育児環境、う蝕活動性試験結果などが、3 歳児健診でのむし歯の発生にどう影響するかを調査したコホート研究である。神戸市保健所にて 1 歳 6 か月児歯科健診を受け、約 21 か月後の 3 歳児健診において、再び歯科健診を受けた子ども 33,655 人を研究対象とした。1 歳 6 か月児健診でむし歯がある 622 人を除外、また、データの不備がある 1,831 人を除外したため、全部で 31,202 人（16,052 人男児、15,150 人女児）を分析した。多変量解析の結果、甘味食品・甘味飲料の摂取回数が多い、仕上げ磨きをしない、フッ化物塗布経験がない、家族に喫煙者がいる児は、むし歯のリスク要因であることが分かった。特に、寝る時間が遅い児は、むし歯が発生することが明らかとなった。睡眠・覚醒リズムおよび就寝前の甘味食品の摂取などの影響があるのかなど、むし歯ができる理由については、今後さらなる調査が必要である。

論文審査結果の要旨

う蝕は多因子性に発生する細菌感染症であり、小児の重要な健康問題の 1 つである。わが国では母子保健法に基づき 1 歳 6 か月健診、3 歳健診において歯科健診も実施されている。

本研究は 1 歳 6 か月健診時点での生活習慣、育児環境、う蝕活動性試験結果などが、3 歳健診時点でのう歯の発生にどのように影響するのかを調べたコホート研究である。神戸市保健所において 1 歳 6 か月時に歯科健診を受け、その約 21 か月後の 3 歳時に再び歯科健診を受けた小児 33,655 人が研究対象であり、最終的に 31,202 人（男性は 16,052 人、女性は 15,150 人）が分析された。多変量解析の結果により、甘味食品・甘味飲料の摂取回数が多い、仕上げ磨きをしない、フッ化物塗布経験がない、家族に喫煙者がいる、寝る時間が遅いことが、3 歳の時点でのう歯の発生のリスク要因であることがわかった。本研究は特定の地域で同一人を追跡した比較的大規模なコホート研究であり、小児の口腔内健康の維持とう歯予防の方策を考えるにおいて重要な知見を示した価値ある業績である。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。